

23.3.12
寒緋桜→
(皇居・北
桔橋門で)



23.3.21 春分
←木蓮と雪柳
(バスの中から)

23.3.22
→8分咲きの桜
(我が家の通り)



はな いっぱい
うさぎ ふたご
うれしくて
ぴよんと とびます
うれしくて
こころが ふかふか します
うれしくて
ふううっと ためいきが できます

ももいろのためいき
きんいろのためいき
ぎんいろのためいき

ためいきは
のはら いちめんち ちって
はなに なります

『のはらうた V』(工藤直子詩)より

本年も3密を避け予約制で開館しています
2023年

3月25日(土)、26日(日) 4週に変更

4月15日(土)、16日(日)

5月20日(土)、21日(日)

★5/21、若葉のころのおはなし会★

小さい人向け AM(10:30~11:45)

大きい人向け PM(1:30~3:45)

6月17日(土)、18日(日)

7月15日(土)、16日(日)

8月19日(土)、20日(日)

開館時間：土曜日 13:00~17:00

日曜日 10:00~15:00

子どものための読み聞かせ・おはなし会

日曜日 10:30~11:00

おはなし沙羅・おはなし勉強会

土曜日 10:30~12:30

〒413-0235 伊東市大室高原 7-122

☎0557-51-3737(090-6039-3782)

沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫

〒413-0232 伊東市八幡野 924-1

☎0557-54-1910

開室日：水曜日 13:00~15:00

：日曜日 10:00~15:00



大分、国東半島の突端。カルガモによく似た海鳥?が連れ添って、泳いだり舞ったりしていました。海の方こう、左は本州山口、右奥には四国が遥かに見えました。

文庫あれこれ◆「昨日の夢は今日の希望であり、明日の現実になる」(ロケットの父：ロバート・ゴダード)◆今年は文庫の本読み3人が大学生(各々志望校に合格)☑☑☑ 3人とも幼い時から通い、よく本を読みました!それが少しでも彼らの人生の灯りになりますよう。そして、彼らの先輩秘蔵っ子 Sちゃん(北大を卒業して何と、地方の村の職員(村興し隊)に。そしてそこは西村がつい先日行った四国高知の北川上村の隣村・馬路(うまじ)村。みなさん、このポン酢に決めているというこだわりがなかったら「ぼん酢しょうゆ・ゆずのむら馬路村」を使ってあげてください(馬路村農協が販売元)。Sちゃんが遠く離れてここでどんな仕事をするのか、応援したいと思います☑(そういえば、先月写真を載せた津波避難センターが、ドラマ「南海トラフ巨大地震」に出ていたようですね)◆「なにしろ、おばあさんになるのは生まれて初めてのこと」(田村セツコ『85歳のひとり暮らし』)：西村は今秋やっとなら80歳、有難いことに連れ合いも元気ですが、85歳過ぎた先輩(中には一人暮らし)がたくさんいらっやいます。みなさん、その日その日を素晴らしい生きて輝いています。そんなお仲間になれるよう願っているのですが自信なし。◆友人と映画「丘の上の本屋さん」を観て来ました。イタリア、丘の上の美しい村の古本屋が舞台です。出てくる人は何かというとサボリ?に来る隣のレストランのボーイ、一風変わったお客たち、そして、店の外に出た漫画本に魅入るアフリカから数年前亡命してきた少年。自分の先行きも予測してか、店主は孫のような男の子にただで、本を貸し始める。少年はすぐに読んで、店主にその本の感想を伝える。店主が次々と貸す本は、ピノッキオの冒険、イソップ寓話集、星の王子さま、白鯨、シュバイツァー自伝、ドン・キホーテ、ロビンソン・クルーソー。少年が数日後やって来ると店には喪中の札が。隣のボーイに手渡されたのは、手紙と《世界人権宣言》の冊子……。読書が導く自由こそかけがえのないものとのメッセージらしいのですが、店主の、来る者誰をも受け止め、去り気なく包むあったかさと、少年役の真っ直ぐな眼差しが印象的でした。◆最近、小説を読んでドキドキするのがしんどくなりました。でも何冊か入れました。自分が読みたいと思うジャンルの本も。読んでくださる方がいると嬉しいです。◆別れの春、巣立ちの春、出会いの春、みーんな夢と希望を持って前進されんことを☑(西村)

思い出すこと～子どもの本・京庫連との出会い～ 池村 奈津子

京庫連って？そう、京都家庭文庫地域文庫連絡会のことです。1973年に結成され100文庫を越えた時期もありましたが、現在は29文庫と個人会員90名で成り立っています。今年は50周年を迎える年です。4月の総会以降1年間は50周年企画を予定しています。

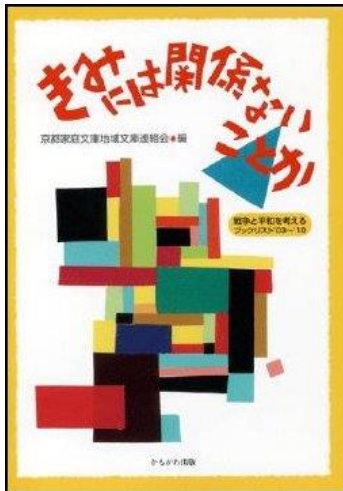
文庫にくる子どもたちは児童が少なくなり幼児が増え、本のある保育園的な感じになっているところもあります。逆に世話人は高齢化していますから運営は大変です。

京庫連に出会ったのは、文庫に関わっていた横浜から京都に越してきた時。

丁度、戦争と平和を考えるブックリスト『きみには関係ないことか 第一集』の準備中でした。

「読み手が足りないのよ。」という重鎮の方々（凄い人たち

だなあという印象）の軽い声掛けがきっかけで、そのまま運営委員に加わってしまい、現在に至ります。ということは京庫連で38年。



キンダーブックを読みながら帰った幼稚園時代、外遊びばかりしていた小学校時代、自宅の本棚にぎっしり並ぶ文学全集や古典に眼もくれず、両親に呆れられたものです。

本を読まない子でしたね。今のような絵本や児童書があったのかどうか、少なくとも近くでは見当たりませんでした。

大学卒業後の仕事は大学図書館司書、子どもの本とは全く縁のない世界でした。

子どもの本との出会いは我が子と絵本を読み始めた時。「こんなに凄い本があったのだ！」と目から鱗。それから・・・子どもの本と関わって、いつの間にか50年近く経っていたのです。子どもの本は奥が深い。絵本からYAまで、読まないのは勿体ない。

京庫連や親地連との出会いから多くの人脈も情報も増え、本の世界はどんどん広がりました。子どもを取り巻く状況が厳しい今、平和を考える読書会も続けています。子どもの頃に読めなかった数々の子どもの本も、新刊書も、子どもの本との関わりはまだまだ続きます。

「子どもの本」って、どうしてこんなに魅力があるのでしょうか。「本の虫」だった子ども時代を過ごされた方々には、「今更、何を言っているの！」と笑われることでしょうか。

(5月号に続く)

徒然なるままに・・・(さ・ら)

★2月下旬、連れ合いの誕生日記念に大分に。夜遅く国東半島にある大分空港に着き、ビジネスホテルへ歩いて。翌朝、レンタカーで、別府、湯布院など名温泉地を素通りして（すでに行っている）、一路？天ヶ瀬温泉&日田温泉へ。（お値段も良かったけれど、宿の雰囲気も私は良し。）ぐるっとまわって宇佐（ビジネスホテル：これが中々。）は、連れ合いお目当てのネギしゃぶ屋さん。（中身は小ネギ、はも、大分牛、豚を特製のタレで。この小ネギという分葱よりちよい太め？が旨い）



★今回もレンタカーは軽自動車。2人旅には良い。あまり変わり映えしない風景も何故か、土地に馴染んで心地よく、ちょっと宇佐八幡に寄ってもらって、私のみお詣り。宇佐神宮は、八幡様の総本店？だそうで、現在おめかし工事中。

★道中、山々の緑や枯れ木の間かしこに、茶橙色の木の群れあり、連れ合い曰く、杉、花粉の色だと聞いてるよと。翌朝宿のテレビで花粉の時期がやってきたと、その運ばれ方や量に驚き!!

★最後の日は、空港近くに戻って、国東半島先端の目の前は海の宿、荘がつくから民宿かと思ったら、否いやどうして100年以上続いた風情十分、温泉からの眺めもグー、料理も最高。連れ合い共々大満足。もし大分空港に行くことあったら1泊オススメです（海喜荘）。

★せっかく来たのだから、関さば、関あじ食べたいと探し回り（現地でも品薄）、やっぱり空港近くの話の寿司屋で、行きと帰りに各々を食べましたが、いやあ、これは?! でした。（↓伊賀忍者と）

★2月半ばは、ローカル電車で、津から米原まで。旧東海道の関宿、草津宿をちよい歩き、テレビドラマの忍者もの伊賀・甲賀の駅の宣伝もあって面白かった、です。



23. 3月に入る子どもの本

絵本

『したきりすずめ』(まつたにみよこぶん むらかみこういちえ ポプラ社) ID13869

『あたしも病気になるたいな!』(フ란ツ=ブランデンブルグさく アリキ=ブランデンブルグえ 偕成社) ID13870

『こねこのはなしではないおはなし』(ランドール・ド・セーヴ作 カーソン・エリス絵 石津ちひろ訳 学研 2023) ID13871

『だれのせい?』(ダビデ・カリさく レジーナ・ルック・トゥーンベレえ ヤマザキマリやく Green seed books 2023) ID13879 (寄贈)

『梨の子ペリーナ イタリアの昔話』(イタロ・カルヴィーノ再話 酒井駒子絵 BL 出版 2020) ID13872

『ぼくはいったいどこにいるんだ』(ヨシタケシンスケ作 ブロンズ新社 2023) ID13880

読みもの

『花仙人-中国の昔話』(松岡享子文 福音館書店 1998) ID13881

『あした、弁当を作る。』(ヒコ・田中著 講談社 2023) ID13873

『かあさんうさぎと金のくつ』(デュボース・ハイワード作 マージョリー・フラック絵 いしぞねりえ訳 徳間書店) ID13868

『アーニャは、きつと来る』(マイケル・モーパーゴ作 佐藤見果夢訳 評論社 2020) ID13874

『ガリバーのむすこ』(マイケル・モーパーゴ作 杉田七重訳 小学館 2022) ID13875

『パップという名の犬』(ジル・ルイス作 さくまゆみこ訳 評論社 2023) ID13876

『チャンス はてしない戦争をのがれて』(ユリ・シュルヴィッツ作 原田勝訳 小学館 2023) ID13877

参考図書

『私のことば体験』(松居直著 福音館書店 2022) ID13878

ひな祭りは過ぎたけど・・・

昔の東海道・関宿のお家に飾ってありました。
左奥は、江戸時代の、右手前は大正時代のお雛様



伊豆高原の駅にも毎年たくさんの雛壇が飾られますね。

みんな、東海道 53 次って知ってる?

東京日本橋から、京都三条大橋の間の宿場町です。
そして何と、静岡県には22もあったんですよ。
西村おばさんは最近、三重県(伊勢国)の亀山宿、関宿、滋賀県の草津宿に行きました。



関、草津の
駅前の
表示



関宿の宿場町

今年の干支(えと)はう・さ・ぎ

今回は

うさぎが出てくる読み物で文庫にある何冊かを別置紹介します。読んでみてください

★読み物

*低学年～中学年

『こうさぎのあいうえお』(森山京さく 小峯書店)
『ぼくのネコにはウサギのしっぽ』(朽木祥作 学研)
『うさぎのぼんとぶたのぼん』(小沢正作 小峰書店)
『かしくいうさぎのローズバット』(ペーメルマンさく 小宮由やく 大日本図書)

『ゆきのひのだんまりうさぎ』『だんまりうさぎとおしやべりうさぎ』『だんまりうさぎときいろいかさ』
(あわなおこ作 偕成社)

『のうさぎのおかあさん』(椋鳩十作 喬木村椋鳩十記念館)

『なぞなぞうさぎのふしぎなとびら』(やえがしなおこ作 岩崎書店)

『うさぎのラジオ』(島村木綿子作 国土社)

『ピロドうさぎ』(ウィリアムズ作 童話館出版)

*高学年

『ガラスのうさぎ』(高木敏子作 金の星社)

『アリスのうさぎ』(齊藤洋作 偕成社)

『1億万年光先に住むウサギ』(那須田淳作 理論社)

『愛をみつけたうさぎ-エドワード・テュレインの奇跡の旅』(ケイト・ディカミロ作 ポプラ社)

*昔話

『ウサギどんとキツネどん』(J.C.ハリス作 岩波書店)

『千びきのうさぎと牧童』(ポランシスカ作 岩波書店)

*うさぎそのものについての本

『うさぎのうさぎ』(増井光子編 博品社)



宇佐神宮 23.2.26

九州・大分県にあります



23. 3月に入る大人の本

フィクション

『川のほとりに立つ者は』(寺地はるな著 双葉社 2022) ID18844

『よき時を思う』(宮本輝著 集英社 2023) ID18949

『あなたはここにいなくても』(町田そのこ著 新潮社 2023) ID18956

『恋とそれとあと全部』(住野よる著 文藝春秋 2023) ID18957

『朝星夜星』(朝井まかて著 PHP 研究所 2023) ID18958

『貸本屋おせん』(高瀬之一著 文藝春秋 2022) ID18950

『手紙』(ミハイル・シーシキン著 奈倉有里訳 新潮社 2012) ID18946

『印サイン』(アーナルデュル・インドリダソン著 柳澤由実子訳 東京創元社 2022) ID18947

『他人の家』(ソン・ウォンビョン著 祥伝社 2023) ID18948

エッセイ ほか

『好きになってしまいました。』(三浦しおん著 大和書房 2023) ID18965

『85歳のひとり暮らし』(田村セツコ著 興陽館 2023) ID18966

『ヤポネシアの海辺から 対談 新装版』(島尾ミホ著 弦書房 2023) ID18960

『十字路が見える 完全版 1 東風に誘われ』(北方謙三著 岩波書店 2023) ID18951

『十字路が見える 完全版 2 西陽の温もり』(北方謙三著 岩波書店 2023) ID18952

文庫だより 196-2

『快樂の仏蘭西探偵小説』(野崎六助著 インスクリプト 2022) ID18959

『古典モノ語り』(山本淳子著 笠間書院 2022) ID18961

『書籍修繕という仕事 刻まれた記憶、思い出、物語の守り手として生きる』(ジェヨン著 牧野美加訳 原書房 2022) ID18962

『天岩戸神話を歩く—高千穂から戸隠へ』(みやのゆきこ著 新評論) ID18843

詩

『美しい人生』(野村喜和夫著 港の人 2022) ID18967

作家研究

『私と言葉たち』(アーシュラ・K・ル=グイン著 谷垣暁美訳 河出書房新社 2022) ID18963

『ルーシー・ボストン—館の魔法に魅せられた芸術家』(田中美保子/安藤聡編著 国書刊行会 2022) ID18964

漫画

『台湾の少年 4』(游珮著 周見信著 倉本知明訳 岩波書店 2023) ID18894 (完結)

..... ❁ ❁ ❁ ❁

今月入れた子どもの本を何冊か読みました。

小学高学年からおとなの人まで、読んでほしい本たちです。

『あした、弁当を作る。』(ヒコ・田中著)
: 思春期の戸惑い、母親からの巣立ち。

..... ❁ ❁ ❁ ❁

一次々と日本を背負ってきた文学者が逝去—
大江健三郎著書 (文庫にあるものだけ)

: 別置しておきますね

『憂い顔の童子』(講談社) ID5089

『いかに木を殺すか』(文藝春秋) ID5090
(文庫)ID8314

『さようなら 私の本よ』(講談社) ID5091

『「伝える言葉」プラス』(朝日新聞社)
ID5826

『人生の親戚』(新潮社) ID1787
(新潮文庫) ID6354

『取り返しのつかないものを、取り返すために』(岩波書店) ID7936

『藤たしアナベル・リイ総毛立ちつ身まかりつ』(新潮社) ID6142

『晩年様式集—イン・レイト・スタイル』
(講談社) ID15409

『懐かしい年への手紙』(講談社文芸文庫)
ID15553

『水死』(講談社) ID7406

『静かな生活』(講談社) ID17380

★いただいた本も多いかと。恥ずかしながら、
西村、大江さんをほとんど読んでいません。

..... ❁ ❁ ❁ ❁

『アーニャは、きっと来る』(マイケル・モーパーゴ作): 静かな村に訪れた戦争とそれを逃れ生きようとする弱き者たち、彼らを守る村人.....

『チャンス—はてしない戦争をのがれて』(ユリ・シュルヴィッツ作): シュルヴィッツの飾り気ない文章を通して伝わる戦争の中で生きること。

..... ❁ ❁ ❁ ❁